報告事項　２－１

# 2026 年度 事業計画

Ⅰ．基本的考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ．事業の概要（主な活動）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

Ⅲ．具体的な活動内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

Ⅳ．理事会・総会等の主要スケジュール　・・・・・・・・・・・・　１０

（付１）活動一覧（委員会、戦略会議、懇談会、事務局）　・・・・・　１１

（付２）関連協議会等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

一般社団法人
九州経済連合会
Kyushu Economic Federation

## Ⅰ　基本的考え方　～ 第２期中期計画 総仕上げ ～

本会は 2021 年に「九州将来ビジョン 2030」を公表し、3 つのありたい姿「新たな時代の成長エンジン」「心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ」「自立型広域連携アイランド」を掲げた。

第 2 期中期事業計画（2024～2026 年度）では、「 “九州から日本を動かす” 新たな価値の創出 ～地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦」をテーマに「11 の重点戦略」を設定し、具体的取組を推進しているところである。

現下の世界経済は、中東情勢の緊迫化など地政学リスクの高まりや米国による新たな相互関税の導入等により不透明感が増している。また、AI の劇的な進化は、人手不足の改善や生産性向上の切り札となる一方、産業構造や人々の働き方を根本から変えつつある。

日本経済は、民間消費の回復により緩やかな成長を続ける見通しであるが、原油価格の高騰などから下振れリスクを抱えている。

九州では、少子高齢化や人口減少を背景に、地域経済を支えるエッセンシャルワーカー等の人手不足が顕在化しており、深刻な課題となっている。

こうした中、日本政府は、「責任ある積極財政」を掲げ、「危機管理投資」や「成長投資」を加速する考えである。具体的には、AI・半導体やフードテックなど 17 の戦略分野を大胆な財政支援で後押しするとともに、自治体との協働による地域産業クラスターの形成や地場産業の高付加価値化を推進し、経済成長を促していく方針である。また、首都機能分散や多極分散型経済圏を形成する観点から、副首都構想を検討するとしている。

2026 年度は、こうした環境変化を踏まえ、第２期中計の最終年度として、「九州将来ビジョン 2030」の実現へ向けて、着実に取り組んでいく。

具体的には、AI の動向を注視しつつ、半導体関連産業や農林水産業など九州の強みを活かしながら、九州の成長エンジンを伸ばしていく。また、人への投資を推進し、若者・女性に選ばれる地域づくりや成長と分配の好循環を実現していく。更に、九州 MaaS や、デジタルを活用した災害対策の高度化などハード・ソフト両面からインフラ整備を推進し、「自立型広域連携アイランド」の構築を目指していく。

九州は、豊かな自然資本や CO2 フリーエネルギー、アジアとの近接性など、多くのポテンシャルを有している。

本会は、九州の強みを最大限に引き出すとともに、産学官のまとまりの良さを活かしながら、九州を更に元気にし、九州から日本の明るい将来に貢献していけるよう取り組んでいく。

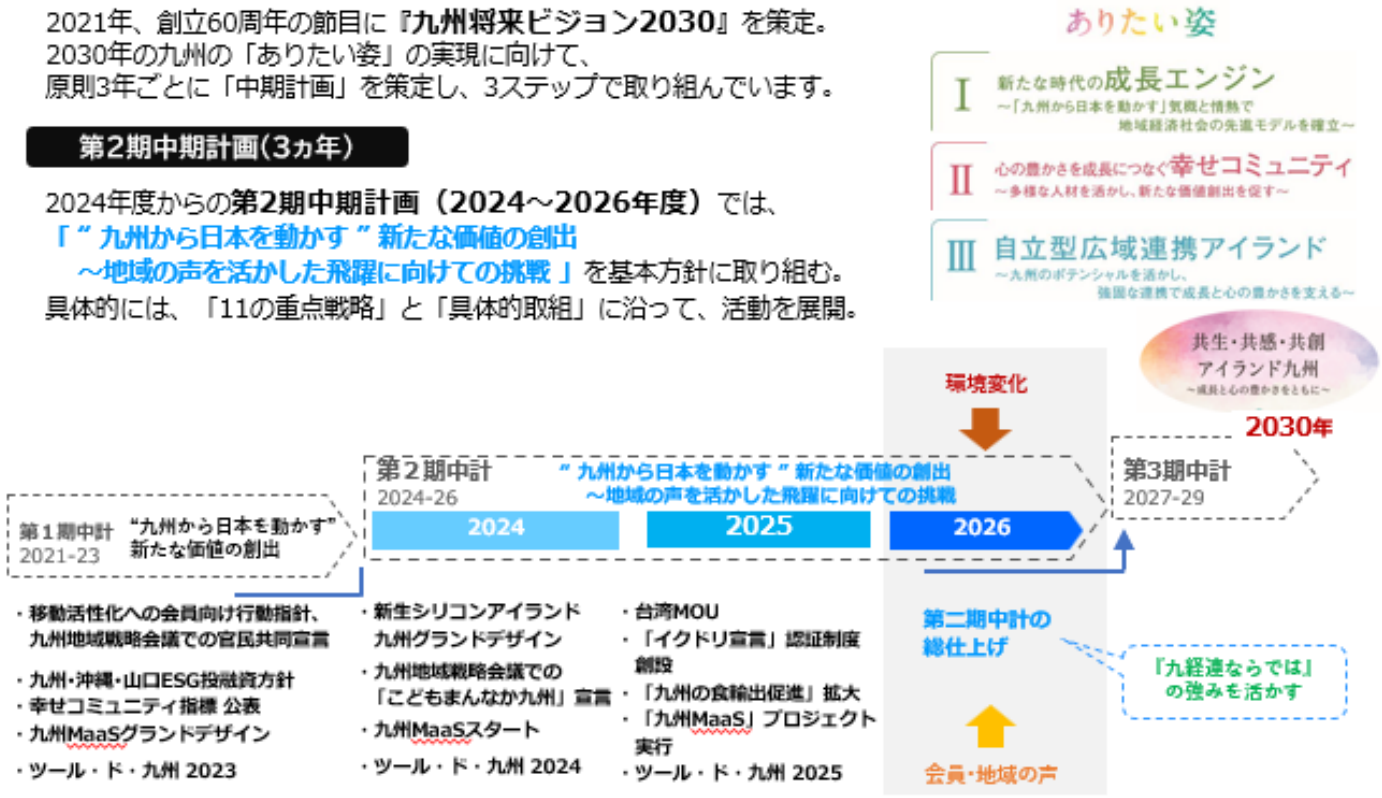
# 2026年度 事業計画　基本的考え方

## 九州将来ビジョン2030

2021年、創立60周年の節目に『**九州将来ビジョン2030**』を策定。
2030年の九州の「ありたい姿」の実現に向けて、
原則3年ごとに「中期計画」を策定し、3ステップで取り組んでいます。

## 第2期中期計画（3カ年）

2024年度からの**第2期中期計画（2024～2026年度）**では、
**「 " 九州から日本を動かす " 新たな価値の創出**
**～地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦 」**を基本方針に取り組む。
具体的には、「11の重点戦略」と「具体的取組」に沿って、活動を展開。




# 2026年度 事業計画　基本的考え方　（ビジョンと中期計画に基づく単年度計画）

＜ **2026年度方針** ＞
2026年度は、第２期中計の最終年度として、「九州将来ビジョン2030」の実現へ向けて、着実に取り組んでいく。
具体的には、AIの動向を注視しつつ、半導体関連産業や農林水産業など九州の強みを活かしながら、九州の成長エンジンを伸ばしていく。また、人への投資を推進し、若者・女性に選ばれる地域づくりや成長と分配の好循環を実現していく。更に、九州MaaSや、デジタルを活用した災害対策の高度化などハード・ソフト両面からインフラ整備を推進し、「自立型広域連携アイランド」の構築を目指していく。



## Ⅱ　事業の概要（主な活動）

| 11 の重点戦略<br>（2024～26 年度） | 主な活動（2026 年度）<br>※　【継】昨年度から継続　　【新】今年度新規性有り |
|---|---|
| 1.新生シリコンアイランド九州の実現<br>～半導体関連産業を中心とした産業集積支援と新たなまちづくり等に向けた取組 | ▷新生シリコンアイランド九州グランドデザインの実現に向けた会員企業および九州地域戦略会議等と連携した課題解決の取組み(ビジネスエコシステム中核拠点整備・運営に係る規制緩和・財政支援等に関する政府要望等)　【継】<br>▷半導体ビジネスエコシステム構築のための半導体関連企業及び半導体ユーザー企業の誘致・育成支援（TAITRA、JETRO、Q-BASS 等他団体と連携した企業誘致イベントの開催、日台半導体産業共創イベントの開催等）　【継】 |
| 2．各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援 | ＜自動車、航空宇宙、ロボティクス等＞<br>▷次世代リーディング産業の育成・誘致・振興【継/新】<br>＜農林水産業＞<br>▷食品の輸出拡大【継】<br>▷企業の農業参入・農業労働力支援【継/新】<br>▷非住宅木造建築の需要拡大【継】<br>＜デジタル＞<br>▷DX・AX 推進のための経営者の意識改革＆実行力の向上【継/新】<br>＜観光・地元定着＞<br>▷「ツール・ド・九州」を核とした九州ｻｲｸﾙﾂｰﾘｽﾞﾑの推進による経済効果の最大化【継】<br>▷「ツールド九州」と連携した、若者の地元定着に資する探求学習プログラム「locus」）の運営【継】 |
| 3．GX 推進及び将来にわたって産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組 | ▷アンケート調査結果を踏まえた企業ニーズ・進捗状況に応じた脱炭素化推進支援【新】<br>▷サステナブル社会実現に向けた国・自治体などとの官民協働の推進【継/新】<br>▷サステナブルファイナンスの拡大に向けた取組【継】<br>▷脱炭素電源の最大活用や最新技術活用に資する法整備・補助金の要件緩和に向けた国への要望【継】 |
| 4．産学官連携によるイノベーションエコシステム構築支援 | ▷「九州・大学発ベンチャー振興会議」や「九州・山口ベンチャーマーケット」等への参画と各支援団体・自治体間の県域を越えた交流・連携の促進【継/新】<br>▷産学連携強化に向けた意見交換・ネットワークの充実【新】 |
| 5．アジア地域諸国・世界との連携強化 | ▷海外への経済交流ミッションの派遣（ベトナムなど）【継/新】<br>▷台湾の経済団体「三三会」との新規 MOU 締結【新】<br>▷インド・九州ビジネスフォーラム（仮称）の開催【新】<br>▷九州プロモーションセンターin ハノイ(K.P.C.)の周知広報活動【継】<br>▷World One Health Congress 2028 等国際会議誘致支援【継】 |
| 6.産学官連携による高度専門人材の育成支援 | ▷九州域内 ICT 人材育成のための実践的インターンシップの企画・運営【継】 |
| 7．九州地域の経済・産業活性化による所得・給与向上の取組 | ▷九州における「価格転嫁の商習慣」定着に向けた会員企業等への働きかけ【継】 |
| 8．多様性・包摂性ある風土の醸成 | ▷「イクドリ！宣言」登録企業の増加に向けた各県支援の拡充を働きかけ【継】<br>▷女性管理職ネットワーク「WE-Net 九州」を通じた、当会事業に関連する地域課題への解決プラン・提言の実施【継】<br>▷人材流動化、外部人材活用に資する取組【新】 |
| 9．ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進 | ▷地域経済を支える交通インフラ整備に向けた取組の推進【継】<br>▷「九州 MaaS」プロジェクトの取組み推進【継/新】<br>▷九州広域データ連携に向けたサービスの実装モデル構築及びプラットフォームの具現化【継】 |
| 10．地域の暮らしと産業を守る防災・減災機能の高度化支援 | ▷災害対策の高度化、広域連携の仕組みづくりに向けた取組【継】<br>▷九州防災 DX ﾀｽｸﾌｫｰｽによる新たなサービス実証等の共創事業【継/新】 |
| 11. 九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決 | ▷地域資源の活用　【継】<br>（健康産業モデル創出、北九州・下関の広域連携、医療渡航推進による地域活性化）<br>▷「九州未来ビジョン 2050」の策定【新】 |

## Ⅲ　具体的な活動内容

第 2 期中期事業計画（2024～2026 年度）における「重点戦略」の「具体的取組」に沿って、2026 年度の活動計画を記載。

### 重点戦略１　「新生シリコンアイランド九州」の実現　～半導体応用産業と半導体関連産業を中心としたビジネスエコシステムの構築とまちづくり等に向けた取組

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

#### ①　新生シリコンアイランド九州グランドデザインの実現に向けた会員企業および九州地域戦略会議等と連携した課題解決の取組み

- 地域の既存産業の特徴や産業政策に応じたビジネスモデルの創出
- ビジネスエコシステム中核拠点の整備・運営に係る規制緩和や財政支援等に関する政府への要望
- 日台協業によるサプライチェーンの強靭化に向けた取組みの推進（日台半導体産業共創イベントの開催等）
- 九州地域戦略会議の九州創生アクションプランに基づく、官民連携施策の実施

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

#### ②　半導体ビジネスエコシステム構築のための半導体関連企業及び半導体ユーザー企業の誘致・育成支援

- TAITRA(台湾貿易センター）および JETRO との MOU に基づく企業誘致への取組み
- Q-BASS(※)等他団体と連携した企業誘致の取組み（誘致イベントの開催等）
  ※九州・沖縄地域 地銀１３行連携（Kyusyu-Okinawa-Banking Alliance Semiconductor Solutions）
- 半導体ユーザー企業及び半導体関連企業の九州進出に係る情報収集と誘致支援

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

#### ③　半導体応用分野（次世代ロボティクス、次世代自動車等）に関する調査・研究

- 次世代ロボティクス（スマートメカトロニクス）や次世代自動車（EV、SDV、自動運転等）、AI 等の半導体応用分野に関する調査・研究

### 重点戦略２　各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

#### ①　次世代リーディング産業の育成・誘致・振興

- エレクトロニクス応用推進に向けたユーザ企業の支援および市場調査
- リーディング産業振興に向けた企業・自治体等へのヒアリングの実施
- 産業界の生産性・付加価値向上に向けた先進工場見学会の実施

〔地域共創委員会〕

具体的取組

## ② 食品の輸出拡大

- 海外マーケットの情報収集・分析（テストマーケティング実施・レポート作成提供）
- 「九州フェア」開催による販路開拓及び現地ネットワークを活用した更なる販路拡大
- 事業者支援（セミナーの開催・専門輸出支援機関「九州の食の輸出推進チーム」との連携）

〔地域共創委員会〕

具体的取組

## ③ 持続的成長に向けた多様な担い手の確保と生産性向上支援

- 「地域農業を地域企業で支える仕組み」を基点とした、人的支援の取組強化
  副業、ボランティア、研修による農業体験拡大、出向型スキームの地域企業への働きかけ
- 企業の農業参入モデルの横展開（自治体・企業での活用、マッチング機会創出）
- 教育面での企業×農業の接点づくり
  学生に対し農業の経営視点を育てる目的で就農調査と先端農業企業との交流による学習機会を創出
- 域外企業の九州農業参入のため、九州各県一体となった課題解決に資するセミナー・シンポジウムを開催（経団連共催事業）
- 九州地域の農林水産業の発展に必要な国の施策支援等に関する要望活動

〔地域共創委員会〕

具体的取組

## ④ 中大規模木造建築物の普及による林業活性化と CO2 削減への貢献

- 九州産木材の需要創出に向けて、非住宅木造建築物普及に関する課題整理･対応策の検討、及び木造・木質化のメリット周知による PR 活動（林業部会「モクビル研究会」）

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

## ⑤ DX・AX 推進のための経営者の意識改革＆実行力の向上

- 経営者の意識改革を促す、DX・AX 先進企業視察ツアーの継続
- 実践的なテーマ別ワークショップの企画・実行
  ※AX＝AI Transformation。AI を活用して業務プロセスやビジネスモデルを変革すること

〔地域共創委員会〕

具体的取組

## ⑥ 「ツール･ド･九州」を核とした九州サイクルツーリズムの推進による経済効果の最大化

- UCI（国際自転車競技連合）公認のサイクルロードレース「ツール･ド･九州 2026」の開催
- 地域を巻き込む仕掛けづくり
- レースと観光事業（CYCLING ISLAND KYUSHU）の連携深化

・ 高校生向け探究学習プログラム「Locus」の活用・実施エリア拡大による、若者の地元定着・九州への人材還流促進

## 重点戦略３ GX 推進及び将来にわたって産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組

〔資源エネルギー･環境委員会〕

具体的取組

### ① 脱炭素社会の早期実現に向けた実行支援等の取組み

・ 2025 年度に実施したアンケート調査結果を踏まえ、以下の支援策を実施
  - 先行企業の費用対効果事例や業種別ケーススタディ等、投資判断に活用できる情報の提供
  - 排出量算出や計画策定可能な GX 人材育成に向けたワークショップ等の実施
  - マッチングイベント等によるビジネス機会の創出
  - 脱炭素電源・最新技術の活用促進に向けた法整備や補助要件の緩和に関する国への要望

〔資源エネルギー･環境委員会〕

具体的取組

### ② サステナブル社会実現に向けた国･自治体などとの官民協働の推進

・ 地域脱炭素実現に向けた地方公共団体と企業とのマッチングイベントの支援
・ 環境省との連携による学生の環境意識啓発につながるセミナーの実施
・ サーキュラーエコノミーの推進に向けた企業間の連携促進、および先進事例の紹介による機運醸成
・ ネイチャーポジティブの認知度向上に向けたシンポジウムやイベント等の開催

〔資源エネルギー･環境委員会〕

具体的取組

### ③ サステナブルファイナンス拡大に向けた取組

・ 九州・沖縄・山口の金融機関による「インパクト志向投融資宣言」の周知
・ 金融機関間でのサステナブルファイナンス好事例の共有
・ サステナブルファイナンスに関する企業・市民の認知度向上に繋がる情報発信

## 重点戦略４ 産学官連携によるイノベーションエコシステム構築支援

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

### ① ベンチャー支援活動への参画および各支援団体・自治体間の連携促進

・ 「九州・大学発ベンチャー振興会議」や「九州・山口ベンチャーマーケット」等への参画
・ 九州におけるベンチャー支援団体・自治体との交流や連携の促進
・ 産学連携強化に向けた意見交換・ネットワークの充実

## 重点戦略５　アジア地域諸国・世界との連携強化

〔総務国際部〕

具体的取組

### ①　MOU 締結先の企業と九経連会員企業との交流機会の提供

- 海外への経済交流ミッションの派遣（ベトナムなど）
- 台湾の経済団体「三三会」との新規 MOU 締結（2026 年 9 月、福岡市内）
- インド・九州ビジネスフォーラム（仮称）の開催（福岡市内）
- 九州プロモーションセンターin ハノイ(K.P.C.)の周知広報活動の実施

〔総務国際部〕

具体的取組

### ②　他団体と連携した MICE 等誘致支援

- 「World One Health Congress 2028 福岡大会」など域内への国際会議誘致支援

## 重点戦略６　産学官連携による高度専門人材の育成支援

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

### ①　九州域内 ICT 人材育成のための実践的インターンシップの企画・運営

- インターンシップの安定的運営に向けた、会員企業や大学に対する継続的な参加促進と連携強化

## 重点戦略７　九州地域の経済・産業の活性化による所得・給与向上の取組

〔経営企画室〕

具体的取組

### ①　適正な価格転嫁による成長と分配の好循環の実現

- 構造的な賃上げによる経済好循環の実現に向けた九州各県における賃上げの動向調査
- 九州における「価格転嫁の商習慣」定着に向けた会員企業等への働きかけ

## 重点戦略８　多様性・包摂性ある風土の醸成

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ①　ジェンダー主流化の取組

- 男性育休２週間以上 100%取得を目指す「イクドリ！宣言」登録企業の増加に向けて、各県支援の拡充を働きかけ

・「WE-Net 九州」を通じた、当会事業に関連する地域課題への解決プラン・提言の実施

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ② 人材流動化、外部人材活用に資する取組

・ 国立高専の全国 51 校ネットワークを牽引する「半導体人材育成センター（佐世保高専）」を核に、産学連携による価値創造人材の育成に向けた取組推進
・ 地域企業の持続的な成長に向けて、都市人材と地域との“外部人材活用“のオール九州での仕組みづくり

## 重点戦略９ ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進

〔交通委員会〕

具体的取組

### ① 地域経済を支える交通インフラ整備に向けた取組の推進

・ 交通委員会や関連団体を中心とした交通インフラ整備に関する要望活動と、九州地域の持続的な経済成長に資する基盤整備に向けた機運醸成および働きかけの推進

＜道　路＞ 人流・物流を支える高規格道路の早期整備
東九州自動車道、九州中央自動車道、西九州自動車道、南九州西回り自動車道、有明海沿岸道路、中津日田道路、中九州横断道路、下関北九州道路、島原・天草・長島架橋構想など

＜空　港＞ 地域拠点空港としての確実な整備
福岡空港の第二滑走路を最大限に活用した機能向上等の早期実現、空港アクセスの向上、訪日誘客支援空港整備支援など

＜鉄　道＞ 地方創生につながる整備新幹線計画の推進
西九州新幹線新鳥栖駅～武雄温泉駅間の整備促進、東九州新幹線の整備計画路線への格上げ

＜港　湾＞ 国際拠点港湾としての機能向上と整備促進

＜地域交通及び物流機能維持・確保＞
持続可能な地域交通ネットワークの構築に向けた財政支援など

〔交通委員会〕

具体的取組

### ② 九州 MaaS プロジェクトの取組の推進

・ 広域での官民・交通事業者間の共創・連携による、デジタルを活用した、利便性が高く、持続可能な地域交通ネットワークの構築に向けた取組の推進

＜移動需要創出・地域経済の活性化につながる取組の推進＞
観光・商業・イベント等交通以外の分野との連携

＜官民共創事業の実施＞
国交省「地域交通 DX 推進プロジェクト“COMmmmONS”」など国の政策との連携
移動円滑化など持続可能な地域交通の構築のための自治体等との協働強化

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

### ③ 九州広域データ連携に向けたサービスの実装モデル構築及びプラットフォームの具現化

- 複数分野を組み合わせた新たなサービスの具体化
- 広域データ連携の方法、形態等のモデル作成
- その他、実現に必要となる事項（運営方法・ルールなど）の調査・研究

## 重点戦略 10　地域の暮らしと産業を守る防災・減災機能の高度化支援

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ① 防災 DX の官民共創
**（災害対策高度化支援、防災対策サービスの官民共創、広域連携の仕組みづくり）**

- 災害対策の高度化、広域連携の仕組みづくりに向けた取組
  - 災害情報活用における広域連携の実証継続ならびに実装に向けた個別支援
  - 全県共通ガイドライン策定に向けた、応援・受援県の具体的な初動対応の整備
  - 情報の標準化（九州版 EEI※）及び情報を効果的に活用する出口戦略の検討
    ※EEI：災害対応基本共有情報（Essential Elements of Information）
- 「九州防災 DXタスクフォース」会員企業のリソースを活用したサービスの実証等の共創事業
  - タスクフォースのリソース展開に向けた基礎自治体の防災対策の課題調査

## 重点戦略 11　九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ① 地域に根差した連携事業（産学官民協働）の展開

**＜地域資源の活用＞**

- 地域資源の発掘・活用による、関係人口拡大や産業創出に向けた取組（特定エリアでのモデルづくり、福岡・筑後地域の特性を活かした健康産業モデル創出　等）
- 関門地域の一体的な発展に向けた、北九州市・下関市の広域連携と地域ブランド向上への取組（関門連携委員会）
- 九州国際医療機構（KIMO）を核とした、医療渡航推進による地域活性化と、外国人患者に関して医療機関が抱える課題解消の取組実施
  （医療渡航者の九州誘致、外国人患者への医療提供に係るリスク軽減、
  外国人患者受入れを行う医療機関拡大）

**＜各地域委員会＞**

- 九経連全体の地域課題解決プロジェクトとの協働・連携
- 会員意見交換会や視察会等を通じ、各地域の産業構造の特色に応じた地域課題の抽出と九経連活動への反映
- 会員相互の交流・連携の促進

## Ⅳ　理事会・総会等の主要スケジュール

2026年

| | |
|---|---|
| 5 月 | 第 185 回理事会（15 日、福岡市） |
| | 第 49 回九州地域戦略会議（27～28 日、山口県下関市） |
| 6 月 | 第 66 回定時総会・第 186 回理事会（12 日、福岡市） |
| 8 月 | 第 23 回九州地域戦略会議 夏季セミナー（4～5 日、佐賀県唐津市） |
| 10 月 | 第 187 回理事会、理事・審議員合同会議（2 日、福岡市） |
| | 第 68 回西日本経済協議会 総会（14 日、松山市）<br>及び要望活動（11 月 16 日、東京） |
| | 第 50 回九州地域戦略会議（28～29 日、宮崎市） |
| 12 月 | 第 77 回九州経済懇談会（経団連との懇談会）（9 日、那覇市） |
| | 顧問会（11 日、東京） |

2027年

| | |
|---|---|
| 1 月 | 正副会長･委員長会議（27 日、福岡市） |
| 3 月 | 第 188 回理事会（26 日、福岡市） |

## （付 1）　活動一覧（委員会、戦略会議、懇談会、事務局）

### Ⅰ．委員会

#### (1)　資源エネルギー・環境委員会

2050 年のカーボンニュートラルの実現に向け、GX 推進により九州における脱炭素に寄与するとともに、産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組みを展開する。

**■脱炭素社会の早期実現に向けた実行支援等の取組み（アンケート結果を踏まえた脱炭素化推進支援）**

①先行企業の事例等、投資判断に活用できる情報提供

②排出量算出や計画策定可能な GX 人材育成に向けたワークショップ等の実施

③脱炭素推進企業のビジネス機会創出に繋がるマッチングイベントの検討

④脱炭素電源・最新技術の活用促進に向けた法整備や補助要件の緩和に関する国への要望

**■サステナブル社会実現に向けた国･自治体などとの官民協働の推進**

①地方公共団体と企業とのマッチングイベントの支援

②学生の環境意識啓発につながるセミナーの実施

③サーキュラーエコノミーの推進および機運醸成

④ネイチャーポジティブの認知度向上

**■サステナブルファイナンス拡大に向けた取組**

①九州・沖縄・山口の金融機関による「インパクト志向投融資宣言」の周知

②金融機関間でのサステナブルファイナンス好事例の共有

③サステナブルファイナンスに関する企業・市民の認知度向上に繋がる情報発信

#### (2)　産業振興・デジタル推進委員会

次世代リーディング産業の育成、九州イノベーション・エコシステムの構築、産学官連携による課題解決促進、更にはデジタル技術の活用による企業の DX 推進支援やそのための ICT 人材育成等を通じ、九州における戦略産業の振興と持続的な成長、地域課題の解決を目指す。

**■「新生シリコンアイランド九州」の実現**
**～半導体応用産業と半導体関連産業を中心としたビジネスエコシステムの構築とまちづくり等に向けた取組**

① 新生シリコンアイランド九州グランドデザインの実現に向けた会員企業および九州地域戦略会議等と連携した課題解決の取組み

② 半導体ビジネスエコシステム構築のための半導体関連企業及び半導体ユーザー企業の誘致・育成支援

③ 半導体応用分野（次世代ロボティクス、次世代自動車等）に関する調査・研究

**■九州イノベーション・エコシステムの構築**

①スタートアップ・ベンチャー支援を通して九州イノベーション・エコシステム構築を推進

**■産学官連携による課題解決促進と高度専門人材の育成支援**

①産学連携懇談会などを利用した産学官の連携による課題解決の促進

②九州域内 ICT 人材育成のための実践的インターンシップの企画・運営

**■各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援**

①DX・AX 推進のための経営者の意識改革＆実行力の向上

**■広域データ連携の推進**

①九州広域データ連携のメリットの追求と方法、形態等の検討

#### (3)　地域共創委員会

地域の社会課題解決と魅力向上による「地方創生」に重点を置き、特定エリアを舞台とする実践的モデル事業と、九州の総意形成による九州一体の取組の両輪で事業を展開し、多様な人々が幸せを感じながら活躍できる、持続可能な地域づくりを目指す。

**■地域の「稼ぐ力」を高める**

① 九州地域戦略会議「九州の食輸出」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行

② 農林水産業の持続的成長に向けた多様な担い手の確保と生産性向上支援

③ 中大規模木造建築物の普及による林業活性化と CO2 削減への貢献

④ 九州地域戦略会議「ｻｲｸﾙﾂｰﾘｽﾞﾑの聖地・九州」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行（ツール･ド･九州の効果最大化）

**■多様な人材**

① 地域の人材の確保・育成、活躍できる環境づくりに資する取組

② ジェンダー主流化の取組（九州地域戦略会議「イクドリ」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行、女性管理職ネットワーク）

**■防災・減災対策の高度化**

① 九州地域戦略会議「防災・減災対策高度化」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行

② 防災 DX の官民共創（九州防災 DX ﾀｽｸﾌｫｰｽ）

**■地域の課題解決**

① 地域資源を活かした輝く地域づくり（関係人口拡大や産業創出に向けた取組

③ 一極集中の是正（高校生向け探究学習プログラム「Locus」活用、国際金融機能の誘致支援）

### (4)　交通委員会

九州の一体的な発展を目指すため、「アジアに近い九州」という強みを活かし、観光・産業振興、アジアのゲートウェイとしての空港・港湾機能の向上、人流・物流を支える高規格道路や整備新幹線の早期整備及び持続可能な地域交通ネットワークの整備等を推進する。

**■地域経済を支える交通インフラ整備に向けた取組の推進**

① 地域が一体となった政府等への要望活動および機運醸成のための整備促進大会等の開催
② 地方創生や国土強靭化、産業振興のため九州に必要なインフラ整備に向けた活動

**■利便性が高く持続可能な地域交通ネットワークの構築及び観光活性化に資する「九州 MaaS」プロジェクトの実行**

① 移動需要創出・地域経済活性化に向けた取組(観光･商業・イベント等交通以外の分野との連携)
② 国の政策との連携、官民共創事業の実施(移動円滑化など持続可能な地域交通の構築のための自治体との協働)

### (5)　関門連携委員会

九州と本州の連携を強化し、関門地域の一体的発展を図るため、地域振興における発展戦略について調査・検討を進めるとともに、下関北九州道路の早期実現に向けた整備促進大会や要望活動を行う(中国経済連合会との合同委員会につき、同連合会との連携による)。

**■関門連携による地域活性化**

広域連携を軸とした地域ブランド向上に向けた活動

**■関門地域内の交通基盤整備**

二県二市、経済団体と連携した道路整備促進

### (6)　各地域委員会

各地域の産業経済に関する諸問題を調査研究し、意見を取りまとめ、九経連全体としての活動に反映することにより、その解決、実現を図ることを目的として、地域に根差した魅力ある九経連活動を展開する。

**■地域に根差した活動強化**

① 九経連全体の地域課題解決プロジェクトとの協働・連携事業
② 講演会、視察会等による調査研究、会員意見交換会を通じ、各地域固有の課題の抽出と九経連活動への反映
③ 会員相互の交流・連携の促進

## 2．　九州地域戦略会議

### (1)　九州地域戦略会議

官民一体となった九州独自の発展戦略の研究や具体的施策を推進する。メンバーは下記の通り。

九州地方知事会（各県知事）、九経連会長及び会長が指名する者、九州商工会議所連合会会長及び会長の指名する副会長、九州経済同友会代表委員、九州経営者協会会長

・テーマ：「第３期九州創生ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」の審議他
・第 49 回：2026 年 5 月 27･28 日 ／山口県
・第 50 回：2026 年 10 月 27･28 日／宮崎県

### (2)　夏季セミナー

産官学のトップリーダーが一堂に会し、九州の発展に向けた共同体意識を醸成し、様々な課題について討議・提言を行う。メンバーは下記の通り。

九州地方知事会（各県知事以下三役等）、域内大学学長、各県議会議長、経済４団体の会員企業　等

・第 23 回夏季セミナー：2026 年 8 月 4～5 日／佐賀県唐津市

## 3．　懇談会

### (1)　沖縄連携フォーラム

沖縄県経済団体会議との共催により、九州･沖縄の連携と両地域の相互理解、共通課題について意見交換、検討を行うとともに、解決を図る。

### (2)　九州経済懇談会

日本経済団体連合会（経団連）との共催により、わが国並びに九州地域が当面する課題について、意見交換する。（2026 年 12 月 9 日／那覇市）

### (3)　九州経済を考える懇談会

九州の経済団体※の長が、九州経済の現状と重要課題について共有するとともに、課題の解決に向けた方向性について議論する（年２回程度）。

※九州の経済団体：九経連、九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ、九州商工会議所連合会、九州経済同友会、九州経営者協会、九州経済調査協会

### (4)　産学連携懇談会

九州の発展戦略や産学連携に関する諸課題について意見交換する。（2026 年４月 15 日／福岡市）

・主要テーマ：
「知」の拠点強化、共同研究･ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、課題解決型ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、地方創生、産業活性化、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化、九州に求められる人材育成･確保 等

### (5)　西日本経済協議会

（2026 年度幹事：四国経済連合会
九経連内担当：総務国際部）

北陸、中部以西の６つの経済連合会※が連携して、西日本地域の共通の課題解決に向けた取組を展開するとともに、国等に要望する。

※6 つの経済連合会：北陸経済連合会、(一社)中部経済連合会、(公社)関西経済連合会、（一社）中国経済連合会、四国経済連合会、(一社)九州経済連合会

・総会：2026 年 10 月 14 日／松山市
・要望：2026 年 11 月 16 日／東京

### (6)　九州女性の会

「九州で働く女性が、管理職や経営者として、九州ひいてはグローバルで活躍できるための資質を高める」を方針として掲げ、九経連会員の女性経営者及び女性管理職による勉強会や交流等を実施する。

## ４．　事務局

### (1)　全体的な取組

① 九州がアジア等海外諸国の成長とともに発展するため、海外政府機関・経済団体との間で締結したMOU（11カ国・地域）等を活用し、九州の中小企業等の海外ビジネス展開の実現に向けた環境整備や対日投資の誘致、諸外国とのネットワーク強化を図る。
- 「九州プロモーションセンターinハノイ(KPC)」を中核としたアセアン戦略の構築･実践
- オール九州の官民による海外ミッション派遣

② 九州各地域の情報を把握し課題解決につなげるため、地域課題と九州全体の戦略･動きを各地域に設置した「地域参事」（駐在担当者）と共有し、各委員会や九州地域戦略会議等を通じて実践的活動に取り組む。

### (2)　会員サービス

① 事務局のデジタル化、並びにペーパーレス化を更に推進し、電子メールによるタイムリーな情報発信を行うとともに、各種案内への申込手続き等の利便性向上を図るなど会員との相互連絡を円滑にする。
② セミナーや懇談会等会員交流の場を増やしてビジネス創出につなげるなど、会員同士並びに事務局間の相互理解と一体感を醸成する。
③ 九経連「九州女性の会」（会員企業の女性経営者及び女性管理職が参加）の活動を支援する。
④ 九経連の取組に関するアンケート等を適宜実施し、会員の声を事業計画（中期、単年度）などに反映し、実行に移していく。

### (3)　広報

① 報道機関に対して、定期的、かつタイムリーな情報提供を行うなどPR強化を図る。
② ホームページやSNS、新着情報メールサービスの活用等により、活動実績や予定等をスピーディに提供することで発信力を強化し、本会活動への参画者増につなげる。
③ 九経連四季報を発行。特集ページを中心とした内容の充実などホームページとの差別化を図り、会員にとって役立つ情報誌とする。

### (4)　九州未来ビジョン2050策定

① 2050年の九州の「ありたい姿」「こうなっているかもしれない姿」を、次世代が主役となって自由な発想で創り上げる。

② ビジョン策定の過程で、次世代リーダーがフューチャー・デザイン※の考え方や手法を習得し、将来を見据えた構想力や判断力の向上を図る。

※フューチャー・デザインとは、将来世代の立場に立って現在の施策や行動を考え、持続可能な社会の実現を目指す考え方や手法のこと

③ 九州各地の若手経営者・リーダーたちが本取組みに参加することで、今後九州をけん引していくリーダーたちのネットワークを築く。

## （付２）　関連協議会等

### (1)　下関北九州道路建設促進協議会

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 地域共創部）

関門地域の一体化と交流拡大、地域経済の活性化に寄与するため、下関北九州道路の早期実現に向けた活動を実施する。

### (2)　東九州軸推進機構

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 地域共創部）

東九州地域の産業・経済をはじめとする地域社会の活性化を図るため、高規格幹線道路による循環型高速交通ネットワークの整備等に向けた活動などを実施する。

### (3)　九州航空宇宙開発推進協議会

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 産業振興部）

九州地域の航空機産業の育成･拡大と宇宙産業の創出を図るため、産学官が一体となって技術レベルの向上や受注獲得のためのアプローチ支援などを実施。2022年に策定した第３次アクションプランの最終年度にあたり、九州における航空･宇宙産業の新たなステップに向けて取組を展開する。

### (4)　九州国際医療機構

（代表理事：中島康晴・九州大学病院長代理
事務局：九経連 地域共創部）

九州の医療機関と産学官の連携により、外国人医療渡航者の九州誘致を目指す。この取組が、在留外国人へのサービス提供の質のさらなる向上へと相乗効果を生み、そして観光等への波及効果へとつなげることで、九州経済の活性化に寄与することを目指す。

### (5)　九州の食輸出協議会

（会長：弓場秋信・弓場貿易㈱社長
事務局：九経連 地域共創部）

九州の生産者･食品製造業者等と九州に拠点を置く商社との連携や海外需要開拓に向けた協働を後押しし、九州の農林水産物及び食品等の輸出拡大を目指す。

### (6)　九州経済国際化推進機構

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 総務国際部、九州経済産業局）

九州経済のグローバル化に向け、九州経済産業局、九州各県・政令市、企業等との連携を図り、海外への経済交流ミッションの派遣や受け入れ、環黄海経済・技術交流会議（九州・中国・韓国の３カ国会議）の開催など、海外との経済交流事業を実施する。

### (7)　九州･沖縄地方創生･産業振興懇談会

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九州地方知事会、九州経済産業局、
九経連 経営企画室）

九州地域戦略会議メンバーに加え、政令市や大学、国の地方支分部局長が一堂に会して、九州の発展の方向性や課題認識を共有・議論する。九州地域戦略会議との連携により、議論の相乗効果や「第３期九州創生アクションプラン」の実効性を高め、地域の創生と産業振興に繋げることを目的としている。

### (8)　九州ＤＸ推進コンソーシアム

（共同代表：九州経済連合会 会長、九州大学 総長
事務局：九経連 産業振興部、九州大学、福岡県、
デロイトトーマツグループ）

域内の自治体や企業、大学等、産学官金の関係者が一体となって、地域におけるデジタル人材の育成や、デジタル技術の活用による地域課題の解決と新たな産業の創造を推進し、持続可能な地域社会と経済発展の実現を目指す。

### (9)　九州大学学術研究都市推進協議会

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九州大学学術研究都市推進機構
九経連内担当：地域共創部）

九州大学学術研究都市構想の総仕上げに向けて産学官民がより一層連携し、新たなフェーズを迎える学術研究都市づくりを推進する。

### (10)　九州エネルギー問題懇話会

（委員長：杉田浩二・九経連副会長）

エネルギー問題や地球環境問題について、情報や知識の交流を行い、多くの方々に身近な問題として考えていただくことを目的に、講演会や見学会などの諸活動を実施する。

### (11)　(一社)九州 MaaS 協議会

(会長：九州経済連合会　会長
事務局：九経連 地域共創部、西鉄 、JR 九州）

2023 年度に九州地域戦略会議で策定した「九州 MaaS グランドデザイン」の実現に向けて 2024 年４月に設立。九州７県と各県で事業を展開する陸・海・空の交通事業者他約 110 を超える企業・団体により構成される、国内初の広域連携・官民共創による MaaS の実行組織。地域交通ネットワークの利便性と持続可能性の向上に向けた取り組みを、官民が一体で推進する。

## （12） (一社)ツール・ド・九州

(理事長：九経連専務理事、
大会実行委員会会長：九経連会長）

九州地域戦略会議において、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会のレガシーの持続的継承や九州でのサイクルツーリズムの推進、九州を襲った自然災害からの復興を象徴するイベントとして国際サイクルロードレース「ツール・ド・九州」の開催を決定し、その運営組織として 2022 年３月に設立された。“Make Kyushu Sustainable～九州の持続可能な未来のために～”を大会の基本方針とし、環境への配慮、DX 推進、若者の探究学習など SDGs の観点から、産官民が一体となって九州地域活性化に資する本大会ならではの取組を実施。

## （13）九州・大学発ベンチャー振興会議

(共同議長：九州大学 総長、九州経済連合会 会長
事務局　：九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ、
FFGﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽﾊﾟｰﾄﾅｰｽﾞ、
九経連 産業振興部）

「優れた大学なくして地方の発展なし」という基本認識のもと、九州の産学が一体となって、地域経済発展の駆動力としての大学発ベンチャーを振興することを目的として、大学・経済界・ベンチャーキャピタルをつなぐ役割を果たし、大学シーズの速やかな実用化を支援する。

# 報告事項２－２

## 2026年度 収支予算

2026年4月1日から2027年3月31日まで　　（単位：円）

| 科　目 | 2026年度<br>予算額（A） | 2025年度<br>予算額（B） | 増 減<br>（A）−（B） | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．事業活動収支の部** | | | | |
| **１．事業活動収入** | | | | |
| 基本財産収入 | | | | |
| 特定資産運用収入 | | | | |
| 特定資産運用収入 | 1,400,000 | 850,000 | 550,000 | 金利上昇 |
| 入会金収入 | | | | |
| 入会金収入 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 新入会目標30社 |
| 会費収入 | | | | |
| 会費収入 | 291,900,000 | 295,070,000 | △ 3,170,000 | 入退会予測差引後 |
| 雑収入 | | | | |
| 受取利息収入 | 300,000 | 100,000 | 200,000 | |
| その他収入 | 6,100,000 | 1,350,000 | 4,750,000 | 事務委託費、TDK家賃収入 |
| 事業活動収入計（A） | **301,200,000** | **298,870,000** | **2,330,000** | |
| **２．事業活動支出** | | | | |
| 事業費支出 | | | | |
| 給料手当支出 | 110,400,000 | 106,900,000 | 3,500,000 | 年齢給ベア3%＋定期昇給 |
| 総会役員会費支出 | 8,900,000 | 8,000,000 | 900,000 | 会場費、交流会費増 |
| 会員懇談会費支出 | 5,500,000 | 5,300,000 | 200,000 | |
| 委員会費支出 | 48,000,000 | 49,700,000 | △ 1,700,000 | 各委員会費積算 |
| 調査費支出 | 5,200,000 | 3,700,000 | 1,500,000 | 海外視察団、農業調査等 |
| 刊行費支出 | 8,200,000 | 4,900,000 | 3,300,000 | SNS、HP等、情報発信強化 |
| 旅費交通費支出 | 9,600,000 | 9,400,000 | 200,000 | |
| 通信費支出 | 2,300,000 | 2,300,000 | 0 | |
| 図書資料費支出 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 加盟団体費支出 | 2,700,000 | 2,700,000 | 0 | |
| 特別事業費支出 | 9,500,000 | 20,200,000 | △ 10,700,000 | 「ツール・ド・九州」関係負担金減 |
| 研修費支出 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 交際費支出 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 印刷費支出 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | |
| 消耗品費支出 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 諸税支出 | 400,000 | 300,000 | 100,000 | |
| 雑支出 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 事業費支出計（B） | **214,500,000** | **217,200,000** | **△ 2,700,000** | |
| 管理費支出 | | | | |
| 役員報酬支出 | 19,000,000 | 19,000,000 | 0 | |
| 退職給付費支出 | 27,700,000 | 19,800,000 | 7,900,000 | 予定者あり |
| 福利厚生費支出 | 24,800,000 | 24,100,000 | 700,000 | 社会保険料等積算 |
| 家賃支出 | 41,600,000 | 36,000,000 | 5,600,000 | 賃料値上げ |
| 備品費支出 | 12,200,000 | 10,800,000 | 1,400,000 | AI導入等ライセンス料追加 |
| 修繕費支出 | 16,900,000 | 3,000,000 | 13,900,000 | 会員システム改修、機器保守料 |
| 管理費支出計（C） | **142,200,000** | **112,700,000** | **29,500,000** | |
| 事業活動支出計（D）=（B）+（C） | **356,700,000** | **329,900,000** | **26,800,000** | |
| 事業活動収支差額（E）=（A）−（D） | **△ 55,500,000** | **△ 31,030,000** | **△ 24,470,000** | |

（単位：円）

| 科　目 | 2026年度<br>予算額（A） | 2025年度<br>予算額（B） | 増 減<br>（A）−（B） | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ．投資活動収支の部** | | | | |
| **１．投資活動収入** | | | | |
| 特定資産取崩収入 | | | | |
| 退職給与引当預金取崩収入 | 27,700,000 | 19,800,000 | 7,900,000 | 退職給与費に充当 |
| 運営準備引当預金取崩収入 | 25,000,000 | 20,000,000 | 5,000,000 | TDK負担金、会員ｼｽﾃﾑ改修に充当 |
| 投資活動収入計（F） | **52,700,000** | **39,800,000** | **12,900,000** | |
| **２．投資活動支出** | | | | |
| 特定資産取得支出 | | | | |
| 退職給付引当預金取得支出 | 11,900,000 | 10,000,000 | 1,900,000 | 必要額を計上 |
| 減価償却引当預金取得支出 | 700,000 | 1,500,000 | △ 800,000 | 必要額を計上 |
| 入居保証金繰入支出 | 2,600,000 | 0 | 2,600,000 | 家賃値上げに伴う追加敷金 |
| 投資活動支出計（G） | **15,200,000** | **11,500,000** | **3,700,000** | |
| 投資活動収支差額（H）=（F）−（G） | **37,500,000** | **28,300,000** | **9,200,000** | |
| **Ⅲ．財務活動収支の部** | | | | |
| **１．財務活動収入** | | | | |
| 借入金収入 | ― | ― | ― | |
| 財務活動収入計 | ― | ― | ― | |
| **２．財務活動支出** | | | | |
| 借入金返済支出 | ― | ― | ― | |
| 財務活動支出計 | ― | ― | ― | |
| 財務活動収支差額 | ― | ― | ― | |
| **Ⅳ．予備費支出** | | | | |
| 予備費支出（I） | 0 | 0 | 0 | |
| 当期収支差額（J）=（E）+（H）−（I） | **△ 18,000,000** | **△ 2,730,000** | **△ 15,270,000** | |
| 前期繰越収支差額（K） | **66,156,984** | **68,886,984** | **△ 2,730,000** | |
| 次期繰越収支差額（L）=（J）+（K） | **48,156,984** | **66,156,984** | **△ 18,000,000** | |